夏に向けての思いを聞く

佐相眞澄監督

佐相監督　チームの課題は「打撃」

秋季大会準決勝で打撃が課題であることがよく分かったので、冬の間にその点を見直しました。ボールの前で振り、空振りとなることが多かったので、しっかりと引き付けて打つ練習を重ねました。冬の前半は打てるボールを確実にとらえる練習、後半は変化球を空振りしないようにする練習を重ね、体にしみ込ませました。

春の県大会はどの試合も大変でしたが、得点されてもあせらずに試合を進めることができました。冬の練習による自信があったからだと思います。しかし、その後の関東大会では、スコアリングポジションに走者を置くも、大事な場面に相手投手の変化球でかわされました。守りも、相手との守備力の差がありました。投手の宮崎もコントロールがうまくできず、リズムが崩れてしまいました。

夏に向けて、県大会決勝で対戦した東海大相模の好投手のような球を打つために、スイングスピードと対応能力をつけたいです。また、連戦にばてない体を作るため、トレーニングも見直しています。公式戦では一歩ずつ成績を伸ばしており、このまま進めば次は優勝となります。ぜひ、その軌跡を残したいです。そして、甲子園で勝利して校歌を流し、県相の名を全国に広めたいです。

井口主将

自分たちは打撃を中心に練習をしており、打撃には自信があります。キーとなる選手は金子です。春の大会では本塁打３本を打つなど、長打力があります。守備は課題が残っているので、練習をして詰めているところです。ポイントとなる選手は投手・宮崎と捕手・本郷です。この二人を軸に大崩れしない野球を目指しています。

春の県大会では、自分たちの野球を一試合一試合しっかりすることができ、決勝まで勝ち進むことができました。しかし、関東では日程の流れにうまく入り込めず、選手に疲れが見られたこともあり、自分たちの野球ができませんでした。ただ、とても収穫がある大会となりました。夏では、神奈川県を勝ち抜いて甲子園に出場し、そして甲子園の舞台でさらに上を目指せるよう頑張ります。

宮崎投手

春の県大会では、多くの方の応援のおかげもあり、準優勝をすることができました。関東大会では力が足りずに打たれてしまいましたが、夏へ向けての課題がよく分かり、勉強になりました。夏まであと１か月ほどですが、自分たちが出来ることをしっかりやり、さらにレベルを上げたいです。

主将・遊撃手
横浜市立中山中学校出身、３年
井口史哉（左）

投手
相模原市立旭中学校出身、３年
宮崎晃亮（右）